

令和3年5月14日

# 南の風 399

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

この二つの事例から私が反省したことは、勝敗を左右するような場面での指示は、結果だけを求め過ぎず、選手が思い切ることができるような雰囲気をつくるような語り掛けをしなければいけないことです。そして、日頃の練習でリスク対応のシチュエーション練習をしておくべきだということです。

「〇〇はしっかりボールミートしてキャッチしよう、△△はパスしたらスペースに跳び込んで、リターンパスを受けてドライブでシュートしよう。〇〇はボールの出所に気を付けてパスしよう。もし自分がパスできないと感じたら、パスフェイクから自分がドライブで攻めよう。他のみんなはリバウンド、ルーズボールに跳び込もう。結果を恐れず5人でチャレンジしよう。」

これは一例ですが、私が伝えたいことは、

- ①結果だけを求める言い方は避ける。思い切ってやれるように仕向ける。「思い切ってやろう！結果はコーチの責任だから、全員が全力でやろう！！」
- ②相手のディフェンスの反応もあるので、ボールマンの判断を尊重する。「〇〇はパスできないと思ったら、フェイクを入れて自分で攻めろ。但し、攻めはドライブでリングを目指せ。周りにはリバウンドやルーズボール、セフティーを忘れるな！！」
- ③勝敗を左右するシチュエーション練習を、日頃から取り入れておく。（これはコーチング）

こんな感じです。切羽詰まった場面で、指示されたことをやり切ることは、選手にとって簡単なことではありません。選手に、「だいじょうぶ！できるよ！2人を中心に5人で思い切ってやってこい！！」という信頼のシグナルを送ることが大切です。

次です。選手の取った行動に、成長を感じた経験です。県大会女子の準決勝のゲームです。

ずっと7～8点差でリードしていて、4Qに入りました。こちらが点を取れば相手も入れるという状態が続きました。そんなに悪い流れではありませんでした。残り時間が約2分の時でした。

ディフェンスは2-1-2のゾーンでした。（ゾーンがOKの時代でした）相手のドライブに対して、中途半端な付き方で抜かれ、シュートされました。次のディフェンスでもゾーンが破られ、ペイント辺りでジャンプシュートを打たれ、外れるのですがリバウンドに行かずにゴール下を決められました。ここで3点差に詰められました。その時チームのガードの選手が私の顔を見たのです。目が合いました。

私はタイムアウトを取りました。その選手はベンチに戻った瞬間、私が指示する前に、「監督、マンツーマンに切り替えた方がいいです。」と言ったのです。周りの選手もうなずいたように見えました。私は一瞬間の後、「ディフェンスはマンツーマンにしよう。注意点は、ディフェンスは・・・、オフェンスは・・・、」と選手に指示しました。

結局このゲームは逃げ切り5点差で勝ったのですが、私は勝ったことよりガードの選手の「監督、マンツーマンに切り替えた方がいいです。」という言葉と、周りの選手の『うなずく姿』が強く心に残りました。ゲームの流れを捉え、チームとしてどうすべきか考えゲームをしている選手たちの姿に成長を感じました。この年、選手たちの活躍で全国大会に出場することができました。